

『おおきな木』通級指導教室だより

豊中市立北丘小学校 R6(2024)年度 11月1日 NO. 2



ワーキングメモリーに着目してみましよう —— “心の容量” という視点で——

最近よく聞く「ワーキングメモリー」。

このことに着目すると、子どもたちの“困り感”が見えてくるかもしれません。

ワーキングメモリーとは ・今することを覚え
・それを実行する能力

と言われます。スマホの容量に例えるとわかりやすいでしょうか。

朝、登校すると、まず

下足室で靴を履き替え⇒教室に入り⇒ランドセルの中身を机の中に
⇒水筒は後ろの棚の上⇒体操服は窓のフックに掛ける⇒宿題を提出
⇒音読カードも提出⇒連絡帳を点検⇒水やりをする・・・

などの一連のルーティンがあります。

雨の日や月曜日はさらにイレギュラーのことが増えます。

毎日のことだからもちろんできて当たり前、と言いたいところですが、気になることがあったり、「できた人だけ提出」などの例外があったり、誰かから「それ、違うで」などの“不意打ち”がきたりするととたんにワーキングメモリーの容量を超えて、何かひとつふたつ取りこぼしてしまうことになります。

ワーキングメモリーは個人差があります

ボトルを思い浮かべてください。

入口の大きさ（＝情報の入りやすさ）も、
容量（＝覚えられる量）も人によってちがいます。



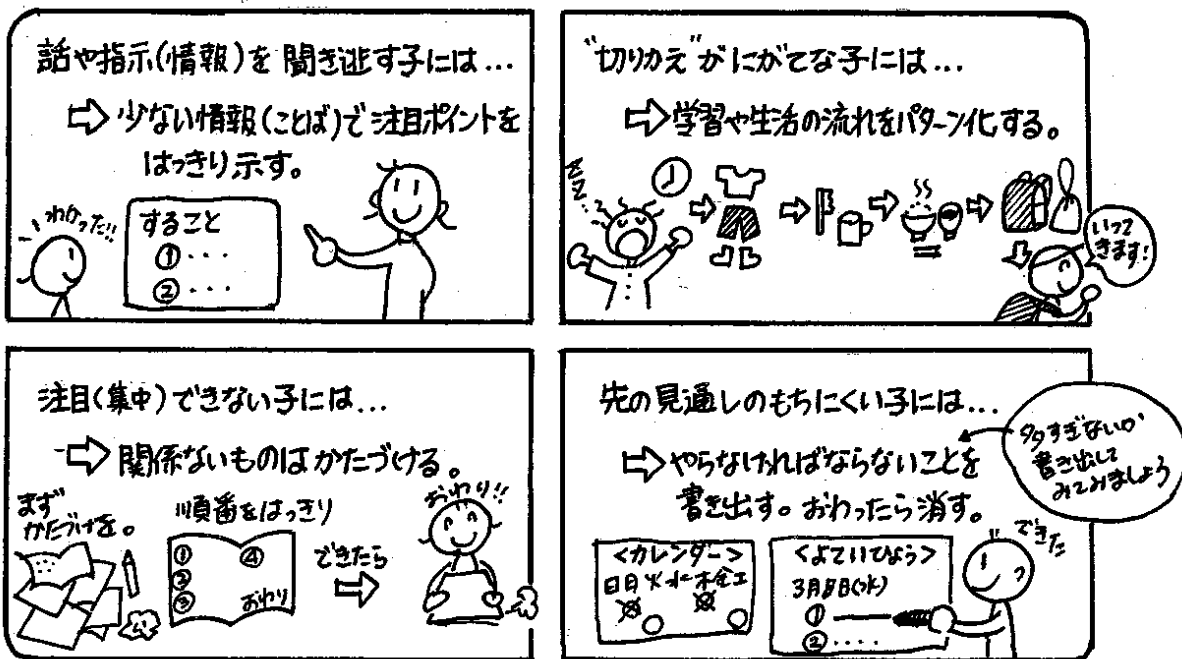
さらに、“負荷”がかかるとワーキングメモリーの容量はどんどん減ってしまいます。

負荷がかかるとこんなことに・・・

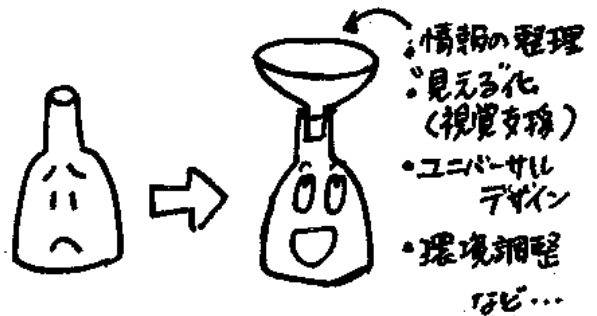


では、どうしたら・・・

ワーキングメモリ容量が少ない子にはこんな配慮ができます (家庭編)



伝え方や環境の配慮、なにより“困っている子どもたちに寄り添いを理解する気持ち”によって、ワーキングメモリ容量が少ない子ども達も笑顔で活躍できると思います。



<この『おおきな木 (通級指導教室)』だよりは北丘小学校 HP にも掲載しています>

『おおきな木』通級指導教室だよりに関することや、学習・生活のこと、通級「おおきな木」へのご質問、見学希望等がありましたら、まず担任の先生にご相談ください。

(豊中市立北丘小学校 通級指導教室担当：藤木桂子)

